

湖東普及だより

令和6年
春号

編集発行

滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：中山 孝彦）

（湖東農業普及指導センター）

〒522-0071 彦根市元町4番1号

TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp

Facebook アドレス：https://www.facebook.com/hukyuudayori.kotou

Facebook ページ2次元コードはこちら→



期待の近江米新品種「きらみずき」

コンセプトは“こだわる人が選ぶ「おいしさ」と「やさしさ」”

「きらみずき」は、中生熟期で食味や玄米外観品質に優れ、気候変動下において安定した生産が可能な本県育成の新品種です。デビューとなった令和5年度は全県55haで栽培されました。

「きらみずき」は、本県の「環境こだわり栽培」の中でも、より環境に配慮した栽培方法に限定しています。“おいしさ”とともに環境配慮への取組に共感する消費者に選んでもらえる「きらみずき」を目指して推進していきます。



「環境こだわり米」



「オーガニック米」

「きらみずき」の栽培方法

①または②で栽培し、「滋賀県環境こだわり農産物」の認証を受けたもの。

- ①「化学肥料（窒素成分）や殺菌・殺虫剤（化学合成農薬）を使用しない栽培」
- ②「オーガニック栽培」（有機JAS認証を受けたもの）

「きらみずき」の疑問

令和5年産「きらみずき」の収量・品質はどうだった？

湖東地域では9名の生産者が「①化学肥料や殺菌・殺虫剤を使用しない栽培」に取り組まれました。管内の平均収量は8俵/10a、農産物検査では全量1等となりました。高温の影響から水稻全般で減収・品質低下が問題となった中、生産者の皆様の丁寧なほ場管理と高温に強い品種特性が発揮された結果です。

有機質肥料栽培は肥料コストが高くなる？

肥料に含まれる窒素成分が低いため、化学肥料栽培に比べて肥料の必要量が多く、コストは高くなります。そのため、令和5年産では大豆後や緑肥後で栽培したり、たい肥や鶏糞を積極的に活用したりすることで、肥料コストを抑える工夫をされました。なお、殺菌・殺虫剤を使用しないため、農薬コストは下がります。

殺菌・殺虫剤が使えないと病害虫の被害が心配…

令和5年産では、大きな減収に至るほ場はありませんでしたが、いもち病、二カメイチュウ、縞葉枯病などの病害虫が発生しました。過去に病害虫が多発したほ場での栽培は避け、耕種の防除に取り組むことで被害軽減につながります。

『一人一人の 小さな気づきが 誰かを救う』 西中学校1年 嶋津 結虹さん

彦根市「はーとふるメッセージ2022」入賞作品

ユーカリ栽培を始めてみませんか

ユーカリとは

ユーカリは銀灰色の葉が特徴的な、「枝物」と呼ばれる主に葉を鑑賞して楽しむ花きの1品目です。アレンジメント、お稽古、花束など、様々な用途で利用される人気の花材です。湖東地域では令和4年から栽培が始まっており、関西の市場を中心に販売されています。収穫期間が秋から翌春と長く都合に合わせて収穫ができる点、水利等作物栽培に条件不利なほ場でも栽培できる点、比較的野生獣被害を受けにくい点を生かして栽培が広がっています。



ユーカリの栽培ほ場



リースやブーケに利用されるユーカリ

湖東地域での取り組みの事例【生産者の感想】

① 集落内の不整形ほ場の活用（甲良町）

集落内にある小さくて、形が悪いため機械作業がしにくいほ場に導入しました。いろいろと園芸品目に取り組みましたが、水利が悪いこともあり、長続きしませんでした。他の品目と比べると省力的に管理できるので、有望な品目と感じています。



② 野生獣被害多発地域での取り組み（彦根市）

サルによる農作物被害が大きく、栽培できる品目が限られる地域ですので、獣害を受けにくいという話を受けて導入しました。定植後、被害を受けることなく生育し、これから本格的に始まる収穫出荷が楽しみです。



栽培の留意点

- ① 生育が早く、すぐに大木となります。摘心と毎年の剪定が必須です。
- ② 収穫は基本的に定植2年目から始まり、3年目以降、本格化していきます。
- ③ 日当たりと風通しがよく、排水性の良い土壌での栽培が適しています。排水の悪いほ場では、高畝にする、排水路をつける、過湿に強い品種を選択する等の対策が必要です。
- ④ 病害虫が発生します。定期的な薬剤による防除作業が必要です。
- ⑤ 通路や株元から雑草が繁茂すると、生育が悪くなったり、葉が汚れて商品価値が下がったりしますので、定期的な除草や防草シートによる対策が必須です。

詳しくは当課までお気軽にお問い合わせください。

イチゴ新品種「みおしずく」の本格的な出荷が始まる

「みおしずく」って？



「みおしずく」は滋賀県オリジナルのイチゴ品種を求める声にこたえ5年の歳月をかけて県が育成した品種です。明るい赤色、さわやかな甘味、フローラルな香りが特徴です。

生産者の皆さんと関係団体が連携し、全県一産地として安定した生産・供給に取り組み量販店等での安定販売を図ることで、県産イチゴのファンを開拓・拡大することを目指しています。

本格販売に向けて

「みおしずく」は令和4年度、試験的に一部の生産者が栽培し、県内量販店で試験販売を実施し、消費者に好評を得たところです。

令和4年秋に種苗申込を募集したところ県内で66件、約2,000株の申込があり、今年度(令和5年度)から本格的に各地で栽培が始まり、生産者の皆様、関係機関のご協力により出荷することができました。店頭で見かけた際は是非御賞味下さい。



「みおしずく」の販売風景(令和4年12月)

湖東地域における取り組み



栽培実証ほ場の視察

湖東地域では令和4年度、1名の生産者が実証ほに取り組み、栽培経過や収量・品質についてJA東びわこイチゴ部会(26名)で報告しました。

今年度は10名の生産者が約3,200㎡で栽培に取り組んでいます。令和5年3月から始まった親株増殖期間中から月2回程度各施設を訪問し、苗数確保に努めた結果、9月に

は計画株数を定植され、その後も高品質イチゴの生産に向けて支援してきました。令和6年度の生産に向けても、研修会での呼び掛けや個別に聞き取りを行い、生産者や面積拡大に取り組んでいます。今後も部会組織を活かして、安定的な出荷を目指します。



みおしずくの栽培を呼び掛ける普及指導員

表彰を受けられました

<令和4年度鳥獣害対策優良活動表彰・農林水産大臣賞> 一円 憲一氏（多賀町一円）

平成26年から令和2年まで多賀町の臨時職員として獣害対策業務に従事されました。在職中の多岐にわたる活動の中でも自身が改良された二ホンザル捕獲用木製檻は、軽量なため設置が容易で、効率よく捕獲ができたことから町内外で広く導入され、現在でも町内に20基以上設置されています。また、自身の獣害対策関係技術の記録をマニュアル化し、現在も滋賀県の獣害対策アドバイザーとして技術の伝承に努められています。

湖東地域を中心とした獣害対策の功績が認められ、今回の受賞となりました。今後の更なる御活躍が期待されます。



<令和4年度滋賀県農林水産表彰・功労賞> 西澤 章氏（多賀町木曽）

昭和50年から長年にわたり主体的に農業に取り組み、昭和61年には湖東地域で初となる農産物直売所「きまぐれ市」を開設し地域の交流を深められました。また、地産地消、食育活動への高い関心は学校給食への地元食材供給の道を切り開き、学校給食における地場産率の向上に大きく貢献されました。

多年にわたり農産物直売所の運営や学校給食への地元食材供給に尽力されるとともに、農業分野での男女共同参画の実現における功績が認められ、今回の受賞となりました。今後の更なる御活躍が期待されます。



農業排水を流さないようにしましょう！

令和5年度田植え時期の宇曽川河口透視度が悪化しました！

令和5年4月17日～5月18日の宇曽川河口透視度は過去20年の中で下から2番目に低い結果でした。琵琶湖環境の保全、肥料成分等の流出防止のため田植え時の強制落水は避け、農業排水を流さないよう意識しましょう。

滋賀県の農業排水の状況、対策に向けた営農技術は、右のQRコード、下記のURLからホームページを御確認ください！



<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/ryutsuu/303205.html>